

学習言語とは？ 学習語に焦点を当てて

文部科学省
第3回有識者会議
ペンシルバニア大学
バトラー後藤裕子

今日の話のアウトライン

1. 私が学習言語・学習語に興味を持ったきっかけ

- カリフォルニアでの実践

2. 学習言語・学習語とは何か

3. アメリカの実践例と課題

4. まとめ 日本での実践への示唆

1. カリフォルニアの実践

- CLAD (Cross-cultural, Language and Academic Development)
 - 英語学習者が1名以上いるクラスで指導するための資格のひとつ（言語教員、および教科担当教員）
 - 文化理解、第二言語習得など
- SDAIE (Specially-designed Academic Instruction in English)
 - 教科担当の教員が英語学習者のいるクラスで指導するための特別な指導アプローチ

1. カリフォルニアの実践

- CLAD (Cross-cultural, Language and Academic Development)
 - 英語学習者にとって指導するための資格のある教員
 - 文
- SDAIE (Sheltered Instruction in English)
 - 教科担当の教員が英語学習者についているクラスで指導するための特別な指導アプローチ

英語学習者にとってわかりやすい指導とは、多くの場合、他の児童生徒にとってもわかりやすい指導なのでは？

2. 学習言語とは何か？

- 知識を得たり、発信したりするために、学習場面で使う言語
- 話ことばと書きことばの両方
- 日常生活で使う言語とは違うものであるという考えかた（二元的なアプローチ）は、古くから存在 (Cummins, 1979など)。これには批判も。
- 具体的に何を指すかに関しては、異なる見解が存在。学習言語という概念そのものを批判する研究者も。

スカーセラ (Scarcella, 2003) の学習言語構成要素

学習言語の側面	構成要素
言語的	音韻、語彙、文法、社会言語、談話
認知的	知識、高次の思考、ストラテジー、メタ言語認識
社会文化・心理的	規範、価値観、信条、態度・意欲・関心、行動・実践・習慣

2. 学習言語とは何か？

- **特徴**

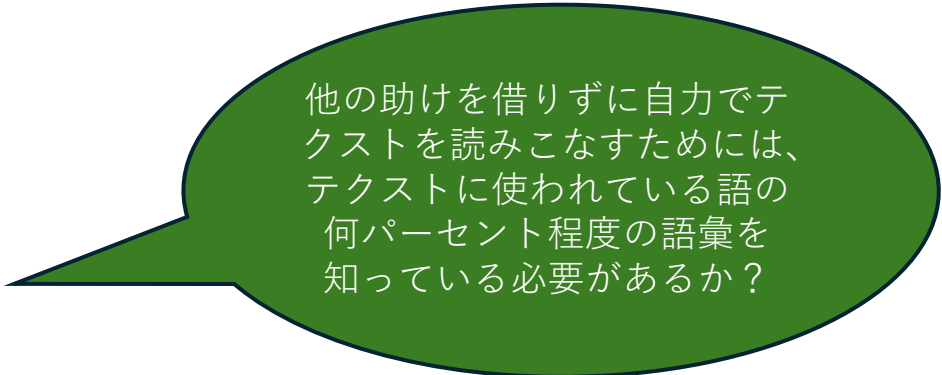
- 教科による違い（談話、文法、語の使いかた）
- 社会的コンテクストのなかで存在するもの（体系的機能言語学を使ったSchleppegrell, 2004の分析など）
- マルチモダルなもの

- **なぜ学習言語が大切なのか？**

- 英語学習者の教科学習における課題から、関心が寄せられてきた（日常会話が堪能でも、教科学習が難しいケースも）
- ただし、英語学習者に限らず、すべての児童生徒の間で重要
- カリキュラムやスタンダードの作成にも、学習言語の把握が重要

- **語彙は学習言語の一部**

- 教科理解の根幹
- 読解能力に深く影響



他の助けを借りずに自力でテキストを読みこなすためには、テキストに使われている語の何パーセント程度の語彙を知っている必要があるか？

2. 語彙力と読解力（英語のケース）

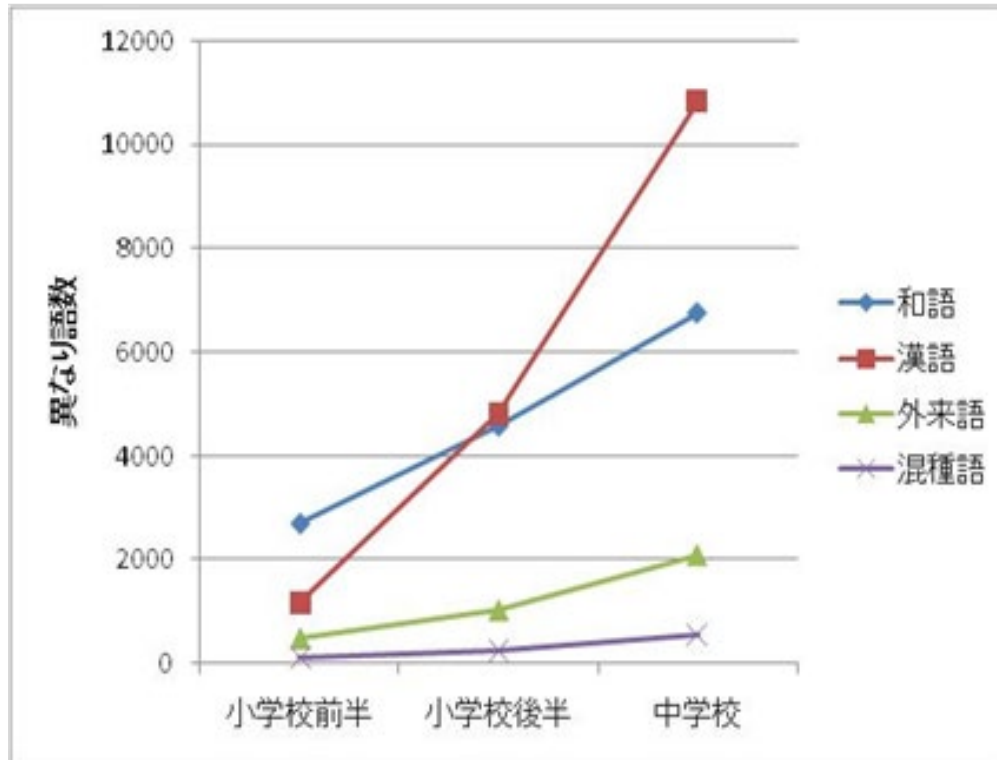
	解読度	理解度	注意事項
自力で読めるレベル	95-99%以上	ほぼ正確	多読が効果的
指導レベル	90% から 95%程度	指導前は 75%程度	指導が必要なレベル、読むスピードは遅い、動機を維持させるための努力が必要
ストレスレベル	90%以下	50%以下	テキストから学ぶのはほぼ不可能なレベル、児童生徒の自信を損なう可能性あり

4年生ごろから学習場面での語の習得は 難しさを増す

抽象概念が増える

日本でも教科書での漢語の数が増える

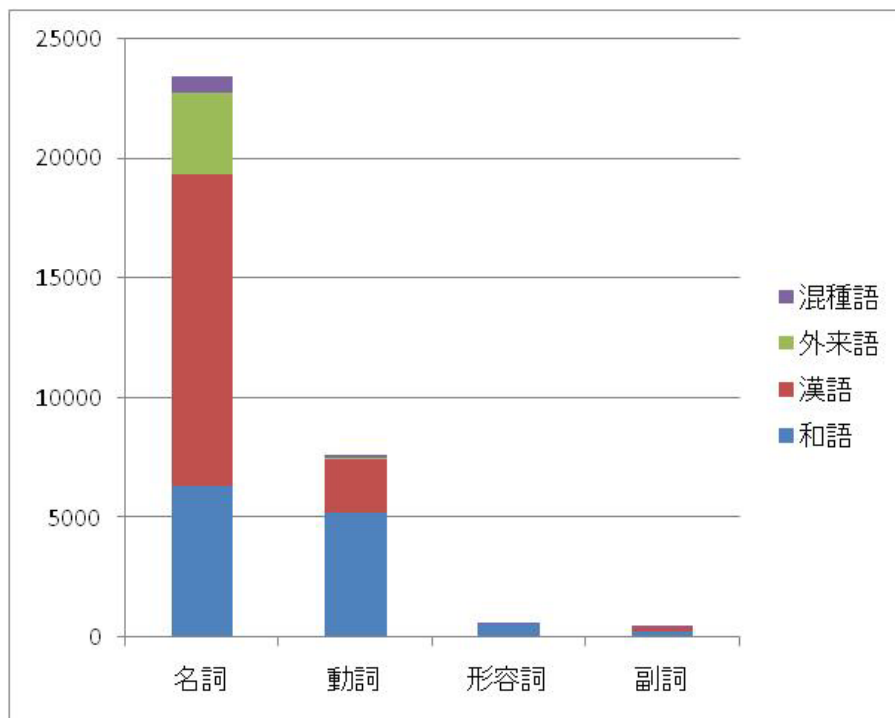
漢語は子供たちの日常会話では馴染みのないものが少なくない



近藤・田中、2008, p. 28

2005年の教科書コーパスをもとにしている

漢語と和語



品詞別異なり語数 (近藤・田中, 2008, p. 30をもとに作成)

- もともと日本語の動詞には和語が多い
- 和語の動詞に対応する和語の名詞がないケースが少なくない
「うごくー運動」
「おしえるー教育」
- 中学生で漢語の動詞が増えるのは「漢語名詞+する」の形が増えるから
「うごく」と「運動する」は必ずしも同じ意味とは限らない

学習語とは？

語彙のタイプ	意味範囲	使用範囲	例
一般語	特化せず	分野を超えて使用される	学校、動く
専門語	特化した意味	分野限定	光合成、為替、蒸散
学習語	特化される場合もされない場合もある	分野を超えて使用される	比較、分析

バトラー (2011, p. 122をもとに作成)

学習語の特徴

- 英語 (Coxhead、2000)
大学学部時における学習語 570 単語家族
- 日本語 (バトラー、2010) 中学卒業時における学習語 ほぼ1500語
 - 頻度最高、最重要のグループに入るのが115語
 - 過半数は名詞 (78語) そのうち67語が漢語
 - 次が動詞 (29語)
- 学習、手順に関わる語が多い
 - 解決、学習、観察、記録、計算、作成、参照、実験、使用、証明、体験、調査、比較、表現、予想、理解
- 同じ語でも教科によって意味や使い方が違うものも少なくない
 - 「てこの**動き**」 (理科) と「社会の**動き**」 (社会)
 - 「**和**のことば」 (国語)、 「**和**をもとめなさい」 (算数)
 - 「能のお**面**」 (国語)、 「球の**面**」 (算数)、 「情報技術の発展における良い**面**と悪い**面**」 (社会)、 「葉の表**面**に現れた水滴」 (理科)

学習語は漢語にとどまらない

- 都内区立中学での調査（自己評価、N = 200、ほとんど日本語母語話者）
- 意味があまりよくわからないと答えた学習語の中には、論理的思考に影響を与えそうな非漢語も含まれていた

- かつ
- なお
- ただ
- しかも
- ただし
- へる（経る）
- あるいは
- すなわち



A かつ B?



原点を**経て**点（3， 4）
に至る直線の方程式？

アメリカでの実践例

WIDA

(World-Class Instructional Design and Assessment)

- さまざまな言語背景をもつ児童生徒の、学習言語の習得と学力向上のための支援を行うコンソーシアム
- スタンダード、アセスメント、カリキュラム・指導の一体化
- **英語の熟達度と教科のスタンダードとの連携**
- ACCESS（テスト）、Can-do、ポートフォリオ評価など
- 教員へのサポート
- 現在、42州が採用

6年生算数（比率）例

- 技能：聞く、話す、読む、書く
 - 言語単位：談話レベル、文レベル、語・句レベル
 - 単元に特化した語彙 sales, tax, discount, percentage, ratio, proportion
 - レベル：熟達度に応じた語彙リスト
- 1～5レベル（6はブリッジレベル）
- 1－3レベル: costs, discount, price, cheap/expensive
 - 2－4レベル: plus tax, on sale
 - 3－5レベル: a good deal, best value, discounted rate, percentage off, final price

課題

(特に言語マイノリティーの視点から)

- スタンダードを強調しすぎ（テストのための学習）
- 文化的・社会的配慮が不十分
 - Equityの問題
 - 学習言語という一定の価値観（多数派の価値観）の押し付け
- 日常の指導とスタンダードとの乖離
- 子どもがすでに持っている（母語を含めた）言語リソースを生かしていない (MacSwan, 2000など)
- その一方で、
 - 批判的アプローチをとった実践などの報告もある (Semiante & Tian, 2021など) が、ケース・スタディーが多く、効果の実証が今のところ十分といえない

まとめ 日本の実践への示唆

- 教科担当の先生がたへの周知
 - **CLAD**などのような、研修の機会
- 学習言語を包括的、柔軟にとらえる
 - 「対日常語」ではない、固定化しないアプローチ
- 教科学習の中での言語学習
 - 授業の中での学習語のチェック
- 多くの児童・生徒にも有効
 - 外国につながる児童・生徒には、文化・言語的な配慮が不可欠
 - 多様性をはぐくむような形での実践
- 質問をしてもよい雰囲気づくり、場所づくり

参考文献

- Cummins, J. (1979). Cognitive / academic language proficiency, linguistic interdependence, the optimum age question and some other matters. *Working Papers on Bilingualism*, 19, 121-129.
- Hu, M., & Nation, I. S. P. (2000). Unknown vocabulary density and reading comprehension. *Reading in a Foreign Language*, 13, 03-430.
- Laufer, B. (1992). How much lexis is necessary for reading comprehension? In P. J. L. Arnaud, & H. Bejoint (Eds.), *Vocabulary and applied linguistics* (pp. 126-132). London: Macmillan.
- MacSwan, J. (2000). Academic English as standard language ideology: A renewed research agenda for asset-based language education. *Language Teaching Research*, 24(1), 28-36.
- Scarcella, R. (2003). *Academic English: A conceptual Framework*. UC LMRI. Santa Barbara, CA: University of California Linguistic Minority Research Institute.
- Schleppegrell, M. J. (2004). *The language of schooling: A functional linguistics perspective*. Mahwah, NJ: Lawrence Erlbaum.
- Seminante, S., & Tian, Z. (2021). Culturally sustaining approaches to academic languaging through systematic functional linguistics. *Language and Education*, 35(2), 101-105.
- 近藤明日子・田中牧郎(2008). 「学校教科書の語彙 ー語種を観点としてー」 『日本語学』 9号, 26-35.
- バトラー後藤裕子 (2021). 『デジタルで変わる子供たちー学習・言語能力の現在と未来』 ちくま新書
- バトラー後藤裕子(2010). 「小中学生のための日本語学習リスト (試案)」 『母語・継承後・バイリンガル教育 (MHB) 研究』 6号、42-58.
- バトラー後藤裕子 (2011). 『学習言語とは何かー教科学習に必要な言語能力』 三省堂